

令和7年度石巻魚市場夏漁受入会議資料

令和7年カツオ・マグロ類漁海況の
最新情報について

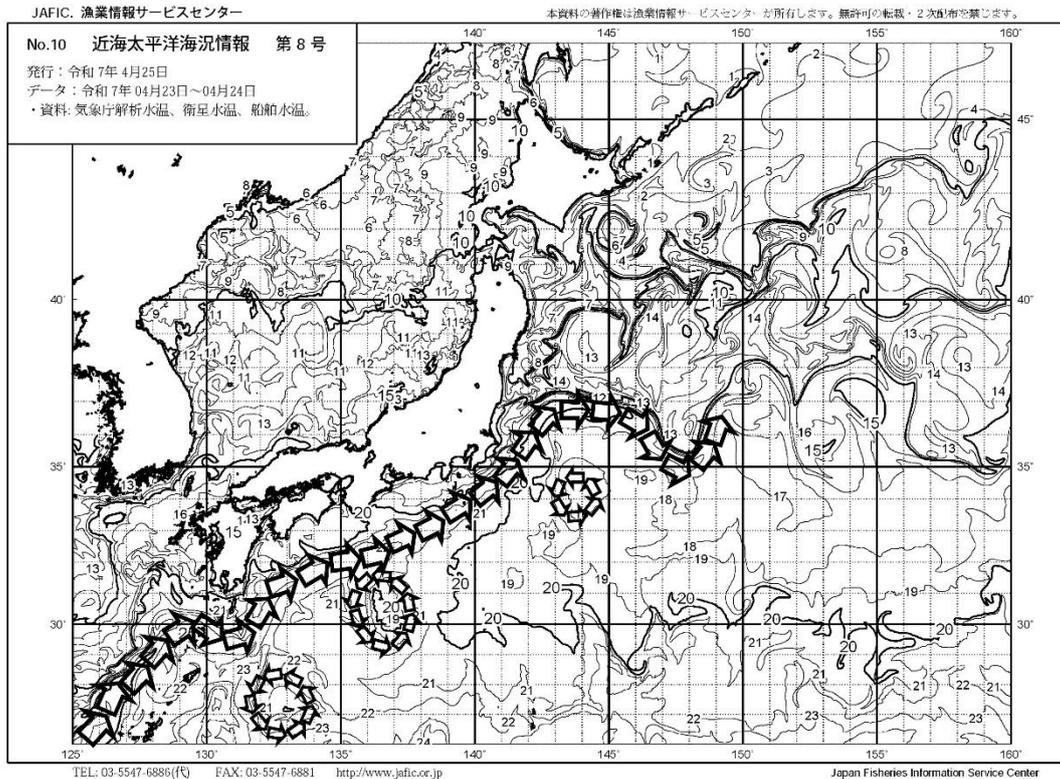
令和7年4月30日

一般社団法人 漁業情報サービスセンター

I 海況

・現状

令和7年4月25日発行 近海太平洋海況情報 第8号 漁業情報サービスセンター



(黒潮流路⇒は海上保安庁4月24日)

黒潮域

ゆるやかに昇温し、20°C以上は房総半島沖まで東進。黒潮は、九州東沖～四国沖の冷水域が東進して黒潮は四国沖では離岸が進んだ。潮岬沖で蛇行南下部が冷水渦として切り離され、潮岬～伊豆諸島付近は直進流路となり、御蔵島付近を通過した。黒潮内側域では熊野灘付近に暖水波及がみられた。

親潮・混合域

広く昇温の傾向。道東沖暖水塊は前期(4/11～4/17)並み。道東沖暖水塊の南側に冷水域が拡大、西側で暖水が北上。三陸付近の冷水域は昇温し、範囲も縮小。三陸南部東沖の暖水塊はやや降温。福島県沖の冷水域は昇温。

(令和7年4月25日発行 日本周辺漁海況情報 第1039号 漁業情報サービスセンターより)

・黒潮長期予測

2025年6月25日までの黒潮「長期」予測 (2025年4月23日 海洋研究開発機構発表)

黒潮大蛇行が始まって7年9か月目になり、過去最長期間になっています。渦がちぎれて、蛇行が大幅に小さくなっています。蛇行は再発達する予測です。

黒潮は大蛇行状態が続いています(図1, A)。2017年8月に始まった黒潮大蛇行は期間が7年9か月目になっており、1975-1980年の4年8か月を大幅に超え、観測史上最長になっています。

大蛇行から渦がちぎれて(A→A')、黒潮大蛇行の蛇行が大幅に小さくなっています。しかし黒潮はまだ紀伊半島の潮岬から離れており、大蛇行が終わった形とまでは言えません。黒潮大蛇行の指標となっている串本浦神の潮位差(気象庁)にも大きな変化は見られません。

今後は蛇行が再発達するかが注目点になります。今回の予測では、蛇行が再発達するような予測になっています。一時期を除き、八丈島(●)の北を流れる流路が続く予測です(図1~3)(B)。黒潮が四国と離れた状態から(図1, C)、近づく予測になっています(図2~3)。

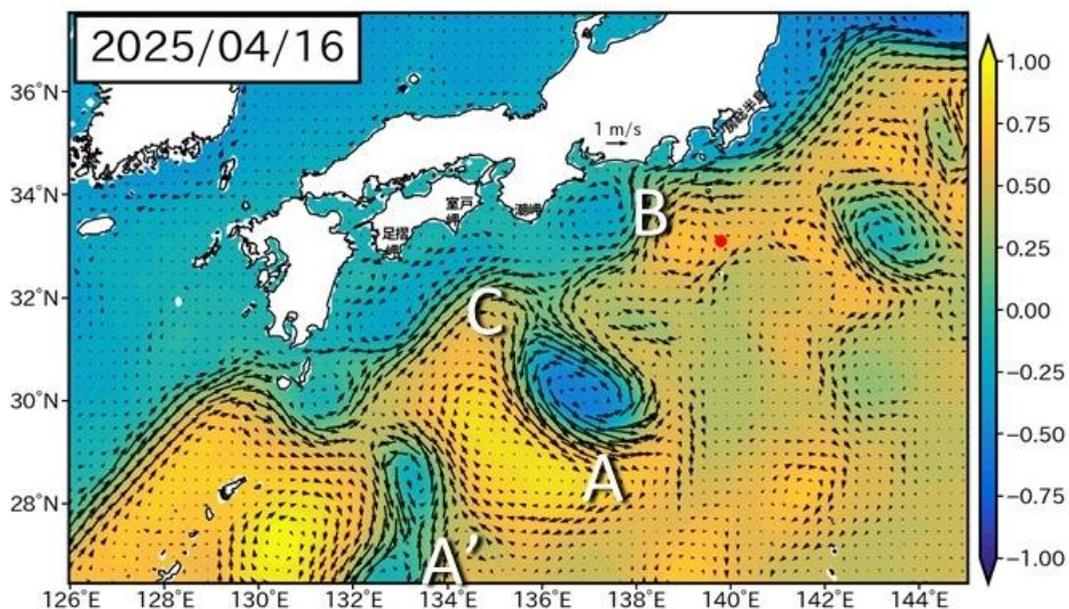


図1: 2025年4月16日の推測値。矢印(ベクトル)は海面近くの流れの向き(メートル毎秒, 長いほど速い流れ)、色は海面水位(メートル, 相対値)。赤丸(●)が八丈島の位置。海面高度が低いところは海面水温が低いおおよかな関係があります。

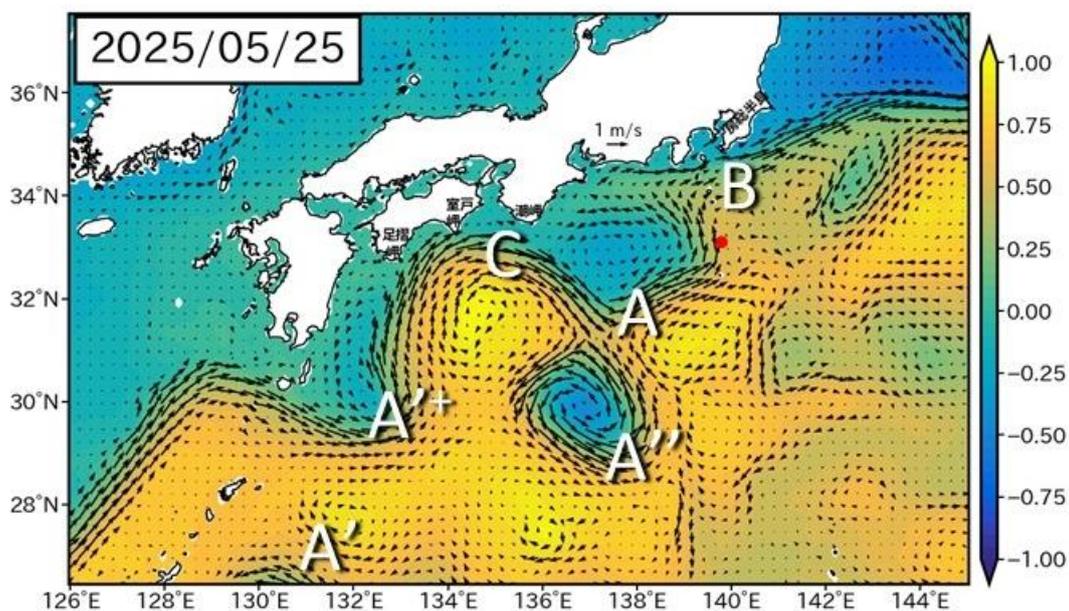


図2： 図1に同じ。ただし2025年5月25日の予測値。

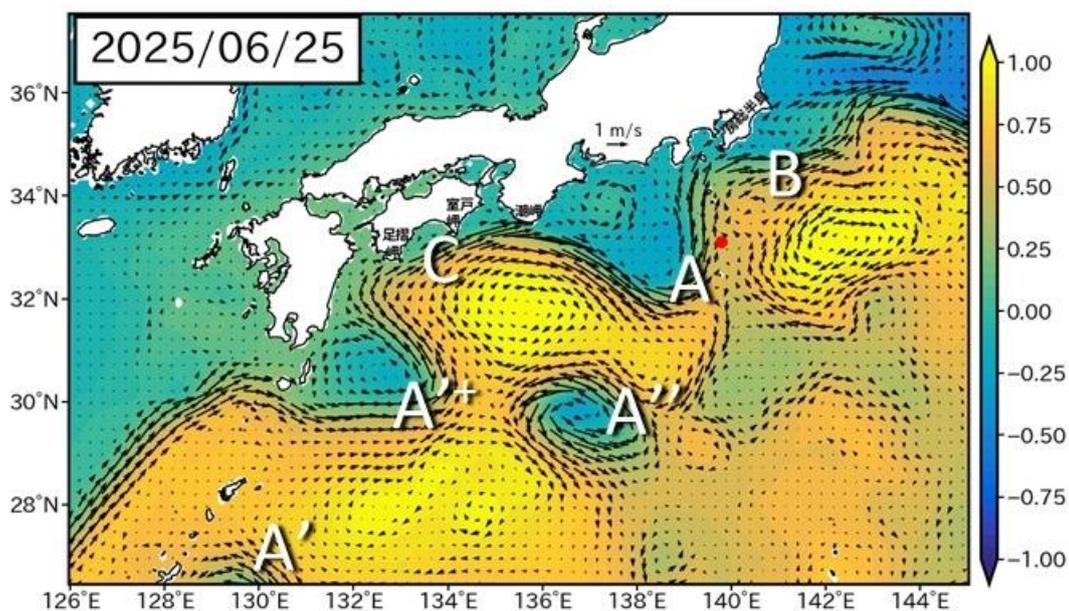


図3： 図1に同じ。ただし2025年6月25日の予測値。

出典

<https://www.jamstec.go.jp/aplinfo/kowatch/?p=14485>



II カツオの資源

・現状

世界の漁獲量 （最近5年間）	163.1万～204.4万トン 最近（2023）年：163.1万トン 平均：175.9万トン（2019～2023年）
我が国の漁獲量 （最近5年間）	16.8万～22.7万トン 最近（2023）年：16.8万トン 平均：18.9万トン（2019～2023年）
資源評価の方法	統合モデル（Multifan-CL）
資源の状態 （資源評価結果）	Frecent/FMSY：0.32（2017～2020年） SBrecent/SBMSY：2.98（2018～2021年） 資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない。
管理目標	産卵親魚量の減耗率*50.5%を維持する
管理措置	2024～2026年のカツオの保存管理措置；漁獲管理ルールに基づき2024～2026年の各漁業の漁獲量及び努力量の水準は、まき網は2012年の努力量、竿釣りには2001～2004年の平均努力量、はえ縄及びフィリピン・インドネシア周辺海域の漁業は2016～2018年の平均漁獲量に対して1.0（等量）とすべきこと。また、この水準を上回った場合には保存管理措置が修正されるとの規定の追加が合意されている。
管理機関・関係機関	WCPFC
最近の資源評価年	2022年
次回の資源評価年	2025年

*漁獲がなかったと仮定した産卵親魚量に対する、産卵親魚量の割合

大に達した。最近年（2021年）の産卵親魚量の減耗率（漁獲がなかったと仮定した産卵親魚量に対する、産卵親魚量の割合）は、約46%であった。科学小委員会は、近年（2018～2021年）の漁獲圧はMSYレベルを下回り（Frecent/FMSY：0.32）、かつ産卵親魚量がMSYレベル（MSYの中央値：265万トン）を上回る（SBrecent/SBMSY：2.98）ことから、**カツオの資源状態は乱獲状態でも過剰漁獲でもない**と評価した。ただし、産卵親魚量が2000年代後半から減少傾向である一方で成魚と未成魚の漁獲死亡が継続的に増加していること、さらに近年の産卵親魚量の減耗率が歴史的な低水準であることが留意され、その主な原因は熱帯域のまき網漁業と西部太平洋のその他の漁業による影響が大きいと報告した。

水産庁 水産研究・教育機構 「令和6年度 国際漁業資源の現況 カツオ 中西部太平洋」より抜粋、理解のため一部加筆 https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_30_SKJ-WCPO.pdf

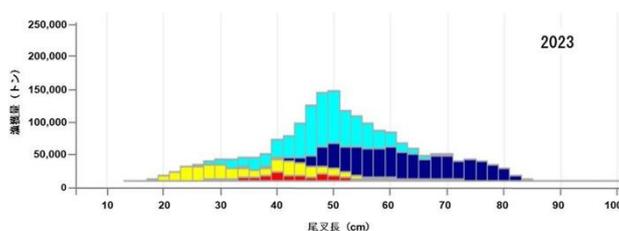


図2. 2023年中西部太平洋におけるカツオの漁法別サイズ別漁獲量（Vidal et al., 2024）
赤：竿釣り、黄：フィリピン・インドネシアの漁業、水色：まき網付き物採集、濃い青：まき網群れ採集。

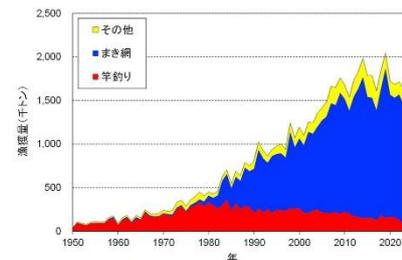


図3. 中西部太平洋におけるカツオの主要漁法別漁獲量の推移（1950～2023年、WCPFC 2024より集計）

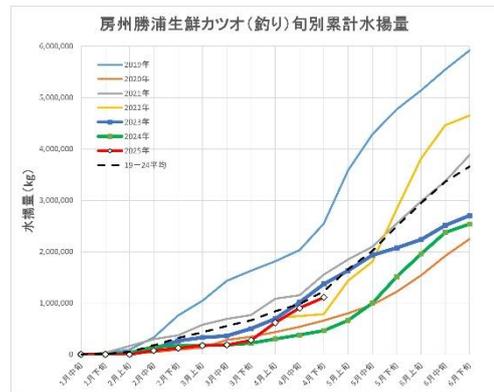
中西部太平洋のカツオの最新の資源評価は、2022年の中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）科学小委員会にて太平洋共同体事務局（SPC）の専門家グループにより統合モデルのMultifan-CLを用いて実施された。資源評価の結果、中西部太平洋全域で推定されたカツオの総資源量は1980年代中頃から2000年代中頃まで緩やかに増加し、その後減少傾向を示した。産卵親魚量も総資源量と同様に2000年代中頃まで緩やかに増加し、その後減少傾向を示し、近年（2019～2021年）の産卵親魚量は過去最低値付近にあることが留意された。推定された加入量は、1980年代から2000年頃まで増加した後、横ばいで推移した。推定された漁獲圧（F）は成魚、未成魚ともに増加傾向を示し、2020年は最

Ⅲ カツオの漁況

・現状

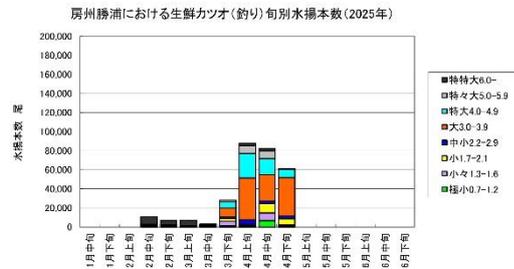
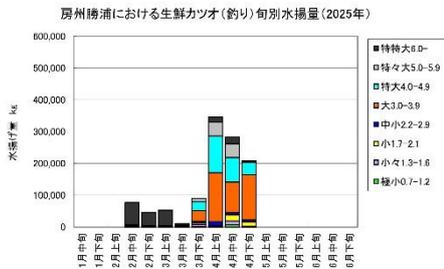
房州勝浦の釣りカツオ水揚げ状況

房州勝浦の今年の水揚げは 2024 年・2023 年より 1 旬遅く、2022 年と同じ 2 月中旬からスタートした。2 月中旬～3 月中旬は小笠原漁場で 6～12kg の特特大を漁獲、3 月下旬以降、伊豆諸島西方の御前崎沖に漁場が移り、3～5kg 級にサイズが切り替わった。北上の主群となる、2.5kg 前後の漁獲が少ないことが、今年の気掛かりである（2024 年は 3 月下旬から北上主群サイズが加入）。今年の累計漁獲量は 2024 年や 2020 年や 2020 年より多く、2023 年や 2021 年を下回り、2019 年の半分以下の水準であるが、4 月上旬～中旬は 1 旬（10 日間）で 300～350 トンの水揚げがあり、2024 年同期の 3 倍、2023 年同期の 2 倍、2022 年同期の 2 倍と近年では比較的多く、2021 年・2019 年同期並みの漁獲であった。房州勝浦で漁獲が急増するのは、例年 4 月下旬～5 月上旬であり、今後の伸びに期待したい。



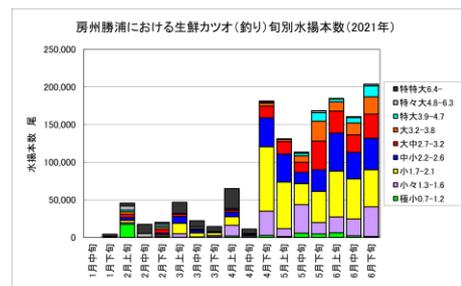
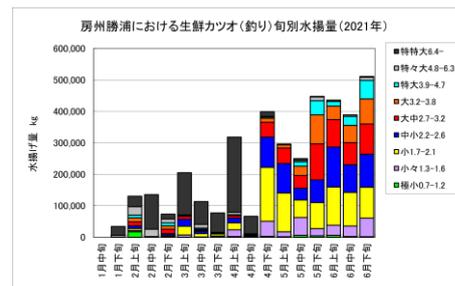
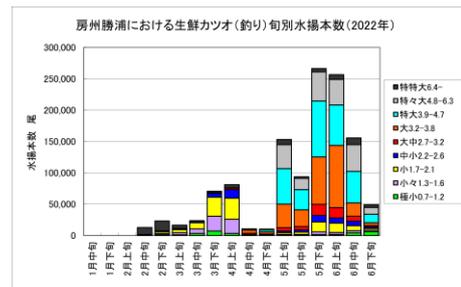
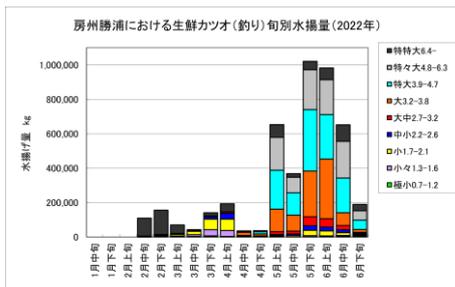
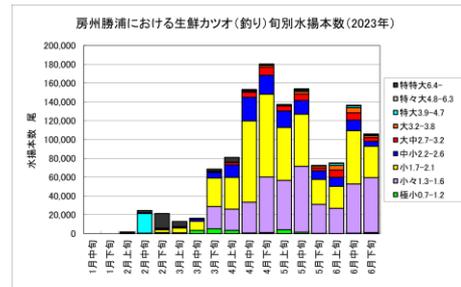
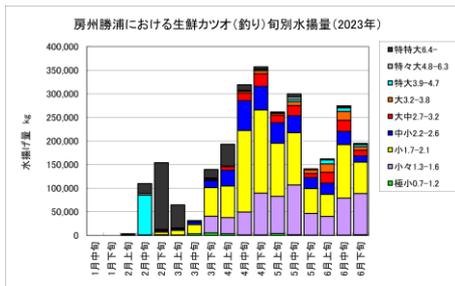
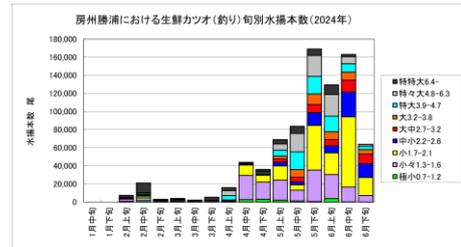
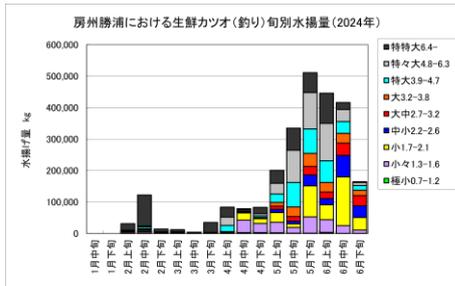
	1月中旬	1月下旬	2月上旬	2月中旬	2月下旬	3月上旬	3月中旬	3月下旬	4月上旬	4月中旬	累計
2019年	0	29	65	240	426	285	388	195	186	216	2,031
2020年	0	6	8	33	48	36	149	63	93	101	539
2021年	0	34	131	135	73	205	113	77	318	67	1,154
2022年	0	0	0	110	156	70	42	141	193	36	748
2023年	0	0	3	110	154	65	31	140	193	319	1,015
2024年	0	0	31	122	14	12	4	35	84	79	381
2025年	0	0	0	77	46	53	10	90	345	283	904

4月中旬までの累計前年同期比 237 %
4月中旬までの累計前々年同期比 89 %



参考資料

房州勝浦における生鮮カツオ（釣り）旬別サイズ別水揚状況（2024～2021年）



IV カツオの来遊

標識放流の結果から、カツオの日本近海への主要な来遊ルートは、黒潮沿い（右図1）、紀南・伊豆諸島沿い（右図2）、伊豆諸島東沖（右図3）に加えて、三陸沖漁場で沖合から現れる魚群がいることから、天皇海山漁場まで含めた東沖からの来遊ルート（右図4）の4ルートが示唆されている。日本近海へは、主に尾叉長30cm台後半（1歳弱）以降の魚が来遊する。日本近海では、春先3月頃から南西諸島・伊豆諸島周辺に分布し、6月以降から11月にかけて主要漁場である常磐・三陸沖へと北上する。南西諸島の群れは春以降も周辺海域に留まる傾向があることから、北上する主群は伊豆諸島沿いと伊豆諸島東沖のルートで来遊したカツオと考えられる。三陸沖へ北上・来遊したカツオは、9月頃に北緯41度付近まで分布を広げ、その後に南下することが明らかとなっている。電子タグの結果から日本近海へのカツオの来遊には水温18℃の限界生息水温が影響すると考えられ、水平的にも鉛直的にもこの水温によって分布範囲が制限される。

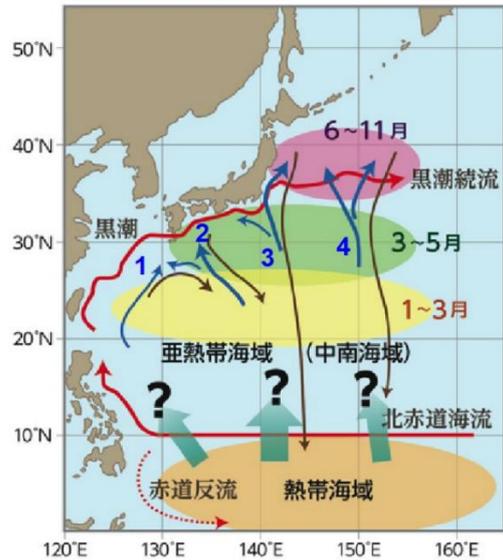


図7. 推定カツオ北上経路と黒潮、黒潮続流、北赤道海流

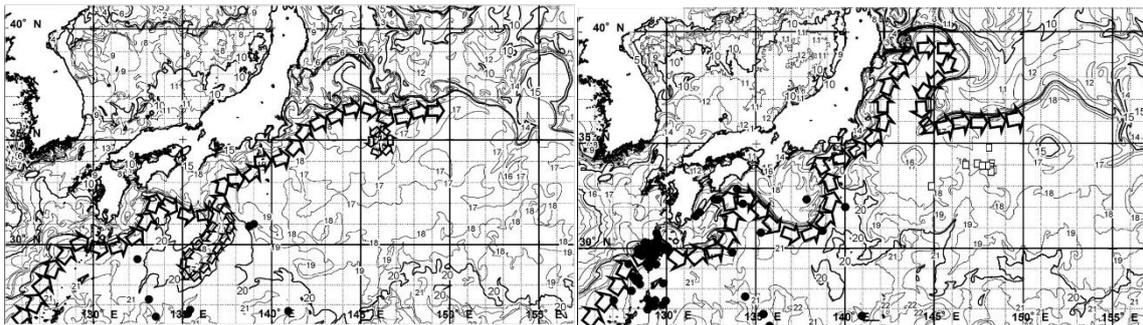
三陸沖へ北上・来遊したカツオは、9月頃に北緯41度付近まで分布を広げ、その後に南下することが明らかとなっている。電子タグの結果から日本近海へのカツオの来遊には水温18℃の限界生息水温が影響すると考えられ、水平的にも鉛直的にもこの水温によって分布範囲が制限される。

水産庁 水産研究・教育機構 「令和6年度 国際漁業資源の現況 カツオ 中西部太平洋」より抜粋、理解のため一部加筆 https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_30_SKJ-WCPO.pdf

・現状

2025年カツオ竿釣漁場

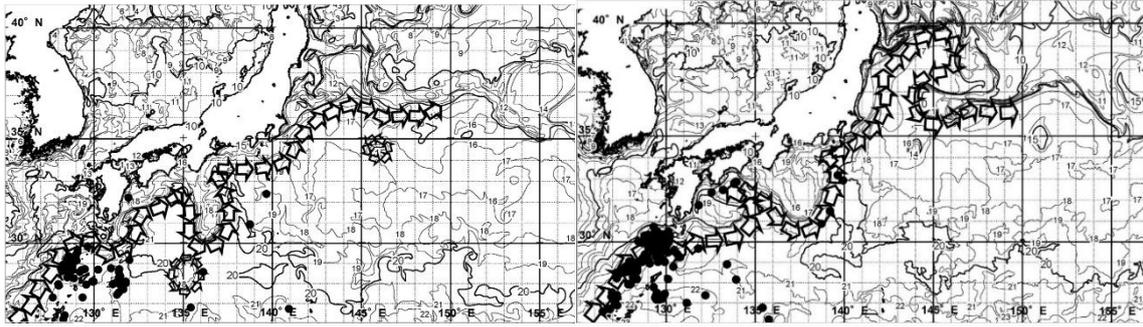
2024年カツオ竿釣漁場



2025年3月上旬の漁況（左図）（）内は前年2024年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）

日本太平洋沖合南部海域：延 52 (30)隻操業、漁獲量 90(82)t、平均 1.7(2.7)t/隻、カツオ特大・特々大・極小主体（カツオ小・極小・キハダシビ仔主体）

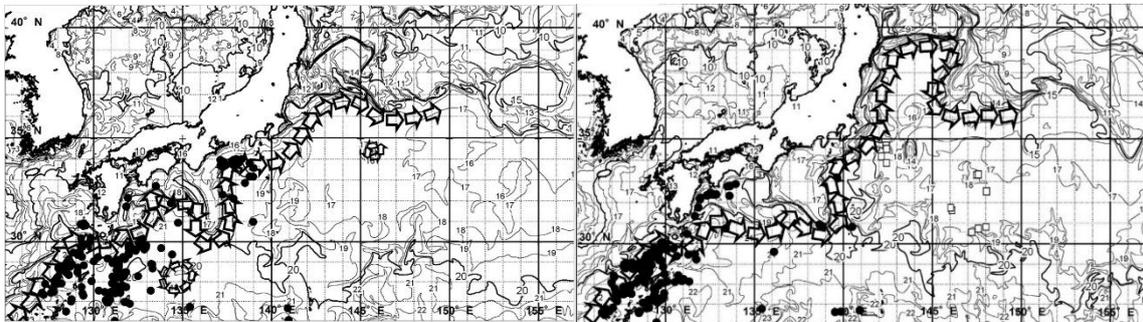
伊豆諸島周辺海域：延 7(3)隻操業、漁獲量 (3)t、平均 3.4(1.0)t/隻、キハダシビ仔・小キハダ・カツオ小主体（キメジ・小キメジ・カツオ極小主体） ●が漁獲位置



2025年3月中旬の漁況（左図）（）内は前年2024年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）

南西諸島周辺海域：延 58 (86)隻操業、漁獲量 154 (161)t、平均 2.7 (1.9)t/隻、カツオ特々大・大・極小・中主体（カツオ特々大・大・小・特大主体）

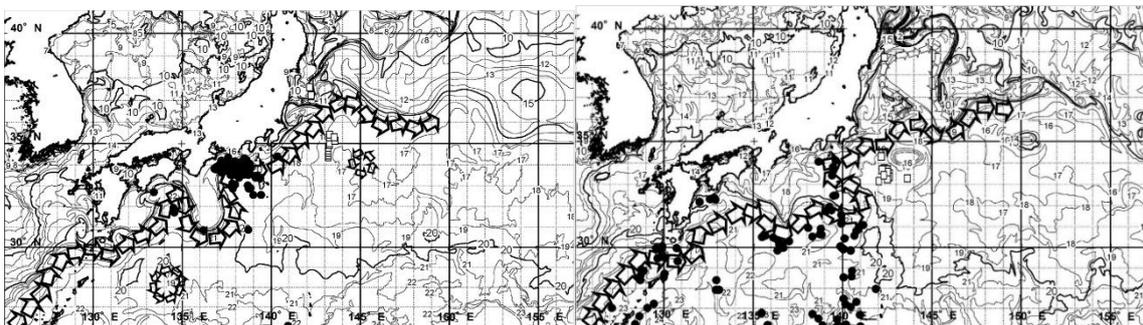
伊豆諸島周辺海域：延 9(4)隻操業、漁獲量 25(1.7)t、平均 2.8 (0.4)t/隻、キハダシビ仔・小キハダ・カツオ小主体（キメジ・キハダシビ仔・小キメジ主体）



2025年3月下旬の漁況（左図）（）内は前年2024年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）

南西諸島周辺海域：延 104 (54)隻操業、漁獲量 201(89)t、平均 1.9 (1.6)t/隻、カツオ大・特々大・キハダシビ仔・カツオ極小主体（カツオ極小・特々大・小・大主体）

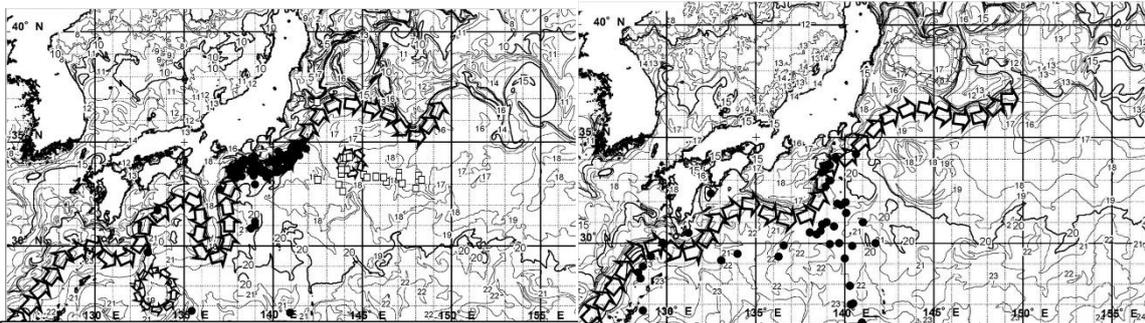
伊豆諸島周辺海域：延 13 (6)隻操業、漁獲量 61 (12)t、平均 4.7 (2.0)t/隻、カツオ大・中・特大主体（カツオ大・キハダシビ仔・キメジ主体）



2025年4月上旬の漁況（左図）（）内は前年2024年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）

日本太平洋沖合南部海域：延 3(46)隻操業、漁獲量 010(105)t、平均 3.2(2.3)t/隻、カツオ大・特大・中（カツオ特々大・特大・大主体）

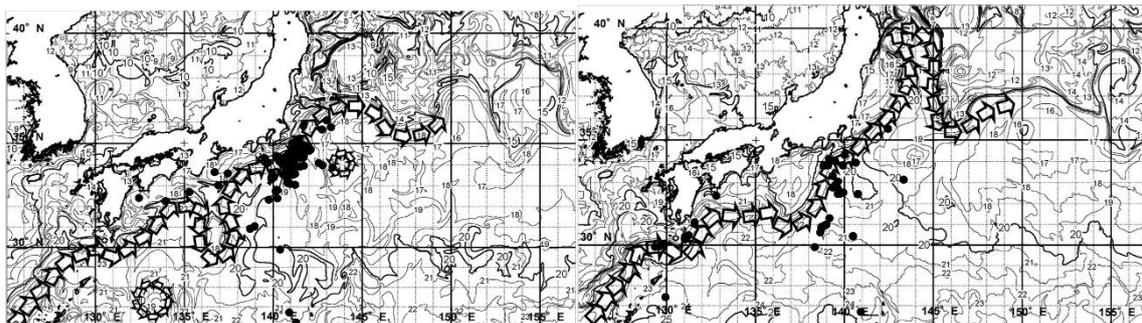
日本太平洋中部～伊豆諸島周辺海域：延 102 (37)隻操業、漁獲量 232 (91)t、平均 2.3(2.5)t/隻、カツオ大・中・特大主体（カツオ大・特大・中主体）



2025年4月中旬の漁況（左図）（）内は前年2024年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）

日本太平洋沖合南部海域：延5(13)隻操業、漁獲量29(35)t、平均5.8(2.7)t/隻、カツオ極小・キハダシビ仔・カツオ小主体(キハダシビ仔・カツオ特大・特々大・小主体)

日本太平洋中部～伊豆諸島周辺海域：延114(53)隻操業、漁獲量305(96)t、平均2.7(1.8)t/隻、カツオ大・中・小主体(カツオ極小・小・キハダシビ仔主体)



2025年4月下旬の漁況（左図）（）内は前年2024年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）

日本太平洋沖合南部海域：延2(2)隻操業、漁獲量5(30)t、平均2.3(14.8)t/隻、カツオ極小・小・キハダシビ仔主体(キハダシビ仔・小キメジ・カツオ小主体)

伊豆諸島周辺海域～房総沖海域～日立・鹿島沖海域：延117(39)隻操業、漁獲量293(115)t、平均2.5(3.0)t/隻、カツオ中・大・小、ピンナガ：中・小、キハダ：シビ仔主体(カツオ極小・小・キハダシビ仔主体)

2025年は4月27日の操業分まで。

参考

ニュース JAFIC EYE No.412 3月の生鮮カツオの漁況について

2025年4月25日 日本周辺漁海況情報 第1018号付録

1. 中型竿釣り船の漁場と魚体

中型竿釣り船の漁期は例年どおり2月上旬から始まり、硫黄島南西沖に漁場が形成された。3月の主漁場は南西諸島周辺だったが、下旬には遠州灘沖でも操業があり（図1）、この海域での漁場形成は前年より早かった。遠州灘沖で漁獲されたカツオは主に千葉県勝浦港（勝浦港）に水揚げされ、この魚体は3月の勝浦港の銘柄組成の推移（図2）から見て3～6kg程度と考えられる。

2. カツオの水揚量と価格

3月の全国の竿釣りによる生鮮カツオの水揚量は944トンで、前年同月比77%となり、低調だった（図3）。中型竿釣り船は主に勝浦港と鹿児島港に水揚げした。主漁場が南西諸島だったため、鹿児島港で最も水揚量が多かったが、前年同月を下回った。勝浦港の水揚量は、前年同月は極めて少なかったが、今年は遠州灘沖が漁場になったため増加した。

全国平均価格は597円/kgで、年初から例年より高値で推移した（図4）。

3. まとめと今後の見通し

直近の状況では日本近海には3kg以上のカツオが多く分布しており、秋に東北沖で主体となる小型のカツオは少ないようだ。3kg以上のカツオについては、4月上旬に静岡県御前崎港で水揚げされた3kg程度のカツオに脂がのっていたという情報もあり（南駿河湾漁協より）、南方から北上したさっぱりした身質のカツオではなく、近海で越冬した脂が乗ったカツオが漁獲されているとみている。

カツオの北上ルートの水温について、小笠原諸島周辺から伊豆諸島周辺にかけては、4月17日現在20度以下の海域もあり、小型のカツオが北上しにくい状況にある。そのため、5月ごろまでは現在と同様に3kg以上のカツオの水揚げが主体となる見込みだ。今

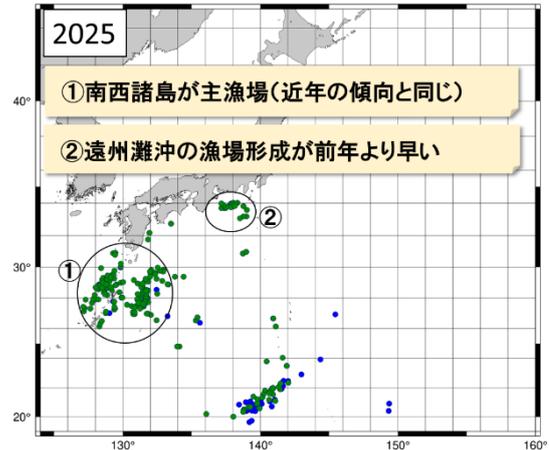


図1. 2024年1～11月の近海竿釣り船の漁場（JAFIC聞き取り）青丸：2月 緑丸：3月

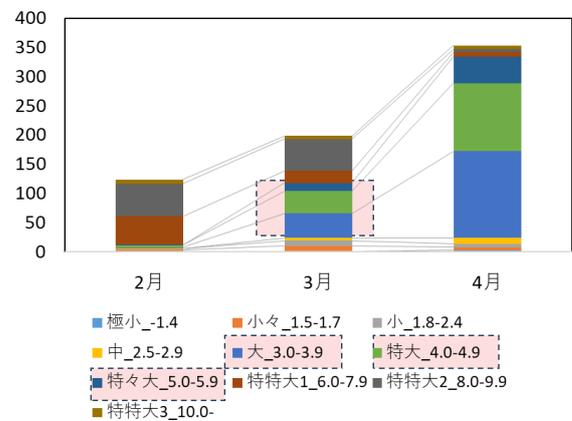


図2. 千葉県勝浦港における2月1日～4月16日のカツオの銘柄別水揚量（勝浦漁協の水揚明細より）

後、このカツオは房総沖に移動するとみられる。秋の東北につながる小型のカツオの出現状況を注視したい。

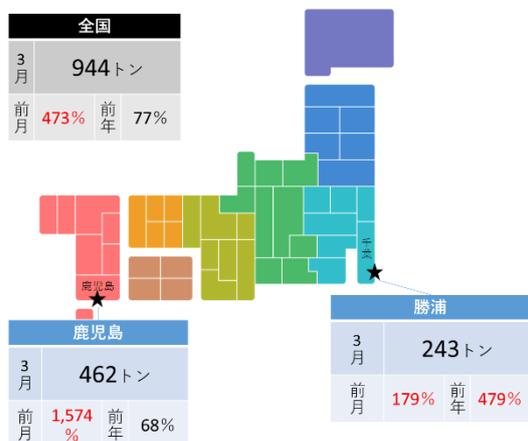


図3. 2025年3月の生鮮カツオ（釣り）の全国水揚量と主要港の水揚量および前月比・前年比（JAFIC おさかなひろばより）

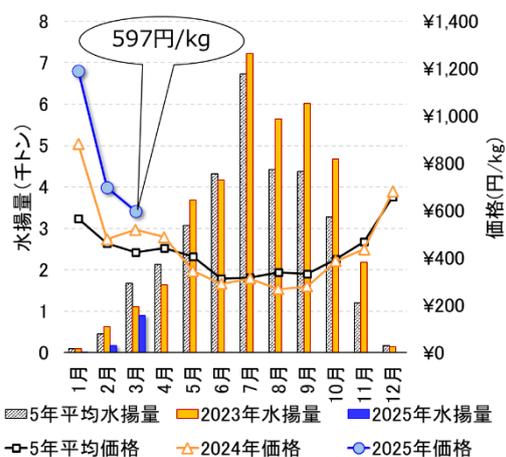


図4. 2025年、2024年および過去5年平均における生鮮カツオ（釣り）の全国月別水揚量と価格の推移（JAFIC おさかなひろばより）

（漁業情報サービスセンター水産情報部 水野紫津葉）

V カツオまとめ

- ・ 黒潮の大蛇行流路は、潮岬沖で蛇行南下部が冷水渦として切り離され、潮岬～伊豆諸島付近は直進流路となり御蔵島付近を通過しているが、蛇行は再発達する予測。（海洋研究開発機構）。
- ・ 2025年3月の全国の竿釣りによる生鮮カツオの水揚量は、前年同月比77%となり低調だった。日本近海には3kg以上のカツオが多く分布しており、秋に東北沖で主体となる小型のカツオは少ない。カツオ北上ルートのひとつである小笠原諸島周辺から伊豆諸島周辺にかけては、4月中旬現在低水温で小型のカツオが北上しにくい状況にあることから、5月ごろまでは現在と同様に3kg以上のカツオの水揚げが主体となる見込み。

- ・ 今後の小型魚の出現動向については、JAFIC 漁海況情報（日本周辺漁海況情報、東北海域漁海況情報）や、国立研究開発法人水産研究・教育機構が6月～7月に公表予定の「令和7年度常磐・三陸沖カツオ長期来遊資源動向予測」を参考にして下さい。

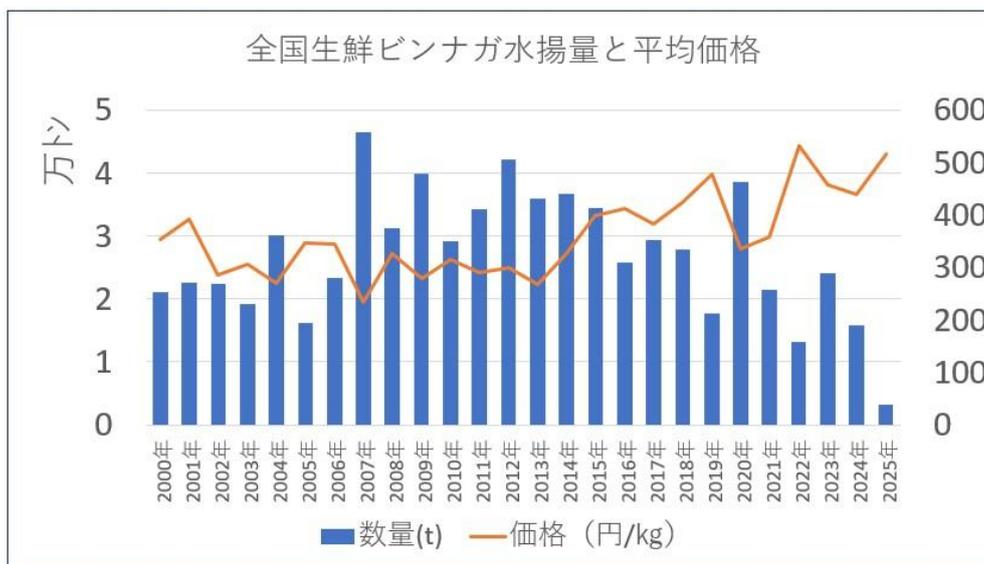
VI ビンナガの現況と予測

冬・春期のはえ縄漁からみた 2025 年夏季の竿釣ビンナガ漁

一般社団法人漁業情報サービスセンター

結果

2025 年 1～3 月の本州南部海域のはえ縄によるビンナガの年齢別釣獲率(釣針 100 本当たりの漁獲尾数)から判断して、本年夏季における東北海域での竿釣りによる漁獲量は、昨年、近年(過去 5 年間)を上回る水準で推移することが予測された。



生鮮 (年計)

(以下 2025 年は 3 月末現在)

全国ビンナガ水揚量 (2020～2025 年 3 月；おさかなひろば)：単位トン、円/kg

◎はじめに

2025年竿釣り漁期におけるビンナガ資源の来遊動向は、漁期前の2025年1月～3月に伊豆列島西側漁場においてまぐろはえ縄漁業で漁獲されたビンナガの年齢別釣獲率（釣針100本当りの漁獲尾数）と、体長組成データをあわせて検討した。

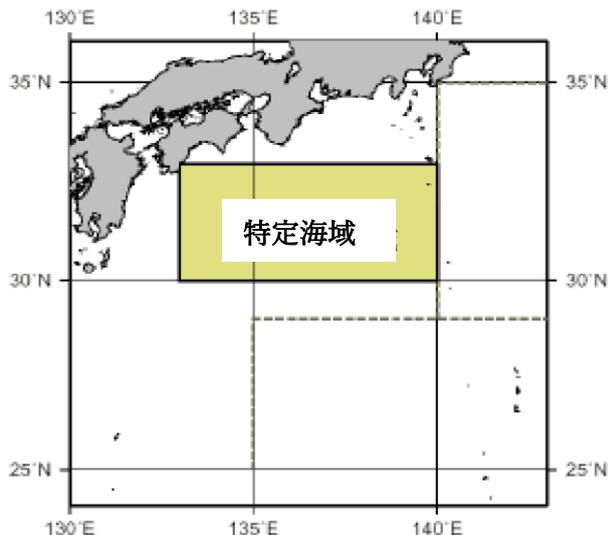
なお、本報告は平成2年度ビンナガ研究協議会に遠洋水産研究所が提出した資料「和歌山県勝浦魚市場日別水揚量からみた伊豆列島西側漁場におけるビンナガ銘柄別（年齢換算）釣獲率の変化（1～3月）藁科・田中」の方法に基づいて行ったものである。

◎使用した資料

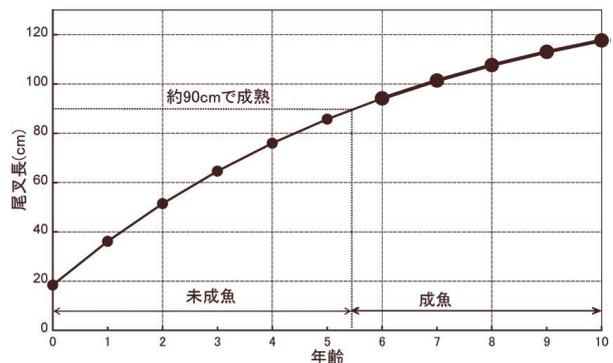
この報告で使用した資料は、2025年1月～3月に伊豆列島西側漁場（特定海区）で操業したまぐろはえ縄漁船が、和歌山県勝浦魚市場に水揚したビンナガに関する水揚表の諸データである。

◎解析方法

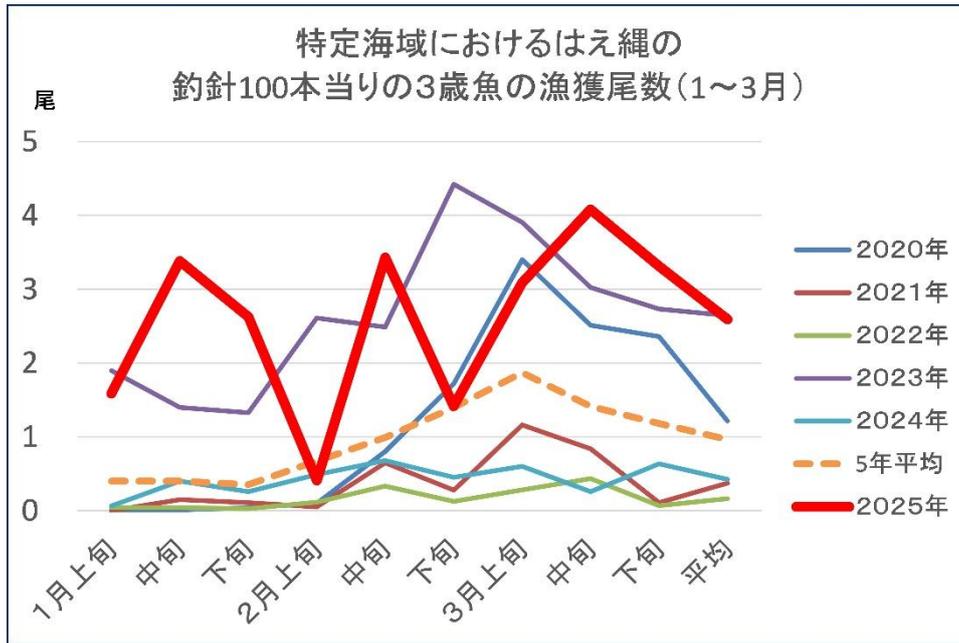
4月以降、北上回遊する中・小型魚群の動向を把握するために、対象海域は伊豆列島西側漁場のうち、まぐろはえ縄漁業の主漁場である $30\sim 33^{\circ}$ N、 $133\sim 140^{\circ}$ Eの範囲とし、特定海区とした。水揚表にあるビンナガの銘柄別の漁獲量と漁獲尾数から平均体重(kg)を算出して、毎年6月に年齢が1歳上がるとして年齢別尾数に換算した。対象海域内のデータを用いて、旬別・年齢別に漁獲尾数と使用釣数を集計して、年齢別釣獲率（釣針100本当りの漁獲尾数）を算出した。その結果、2025年の3歳魚の釣獲率（次ページ図の赤色）は、おおむね高水準で推移していることが分かった。



特定海域： $30\sim 33^{\circ}$ N・ $133\sim 140^{\circ}$ E



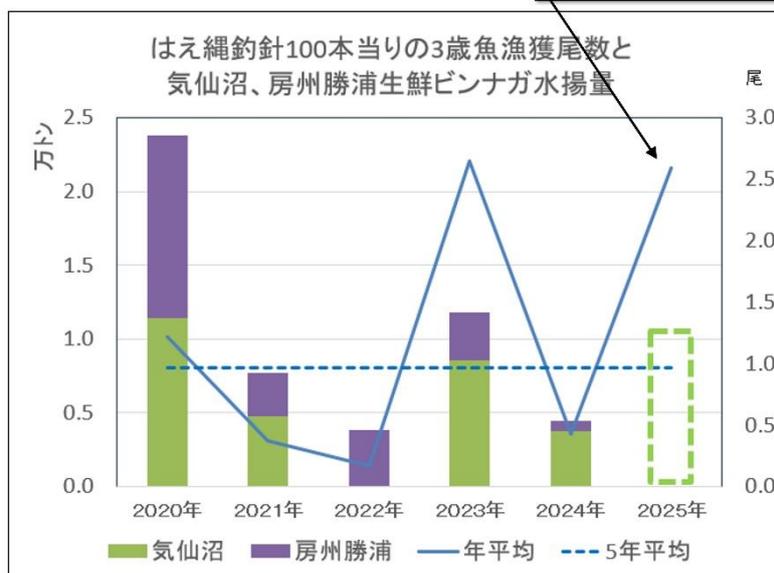
北太平洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係(須田 1966)



◎2025年夏季竿釣ビンナガ漁の予測

はえ縄により本州南部海域（特定海域）で1~3月に漁獲された3歳魚が、夏季に4歳魚になって東北海域で竿釣りにより主体的に漁獲されることから、2025年1~3月の本州南部海域のはえ縄によるビンナガの年齢別釣獲率から判断して、本年夏季における東北海域での竿釣りによる漁獲量は、昨年、近年（過去5年間）を上回る水準で推移することが予測された。

3歳魚（青線）の動向に着目すると、2025年は昨年、過去5年平均（点線）を上回る。



◎これまでの予測の評価

2024年：昨年（2023）を下回り（○）、近年（5年間平均）並みかやや下回る（○）

2023年：昨年（2022）を上回る（○）、近年（5年平均）の水準を上回る（○）。

2022年：昨年（2021）を下回り（○）、近年（5年平均）の水準を下回る（○）。

2021年：昨年（2020）を下回り（○）、近年（5年平均）の水準を下回る（△）。

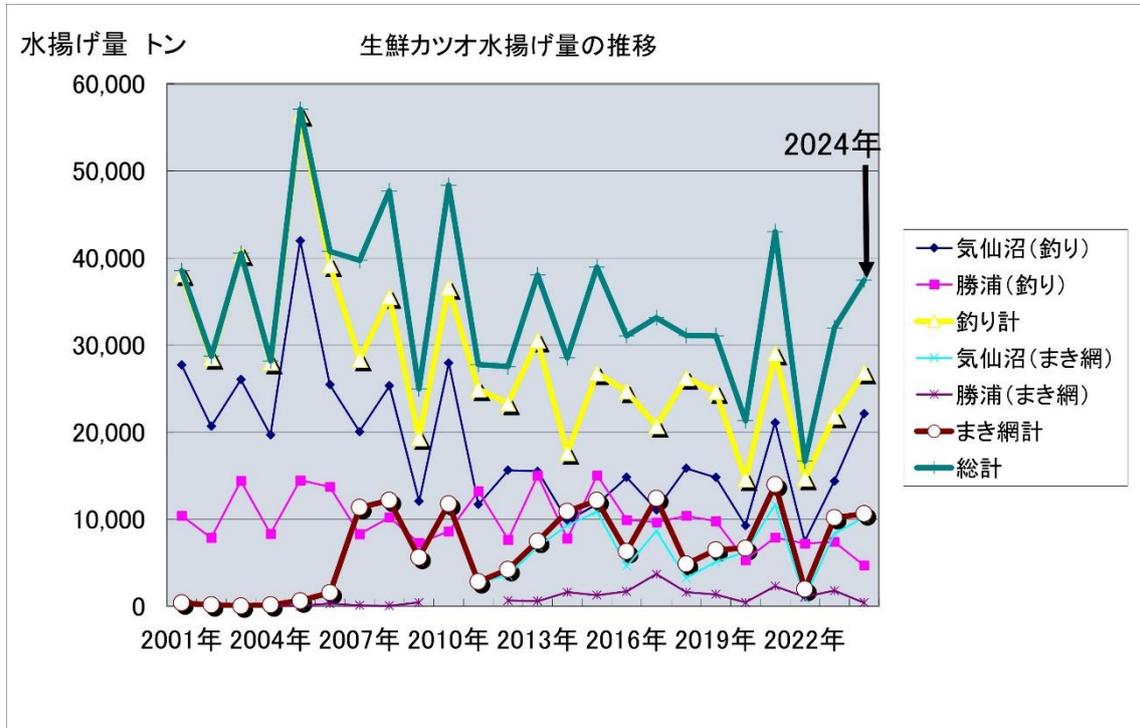
2020年：昨年（2019）を上回る（○）ものの、近年（5年間）の水準を下回る（×）。

2019年：昨年（2018）を下回り（○）、近年の水準を下回る（○）。

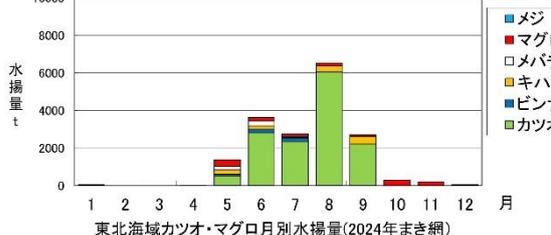
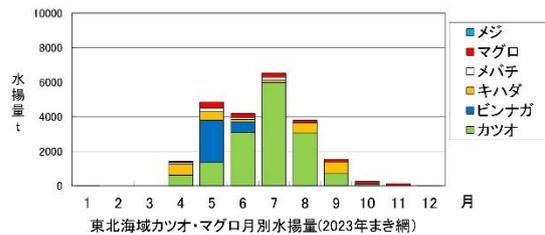
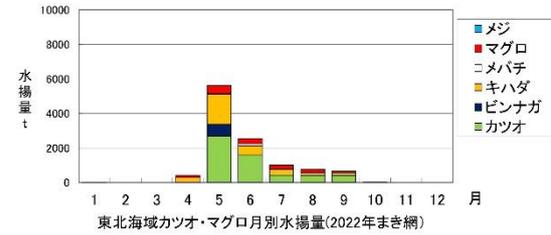
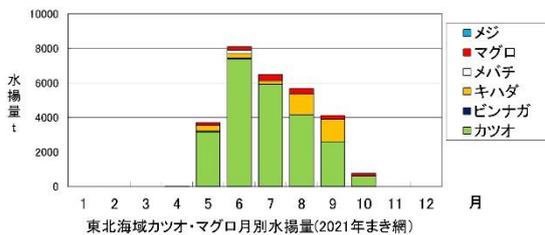
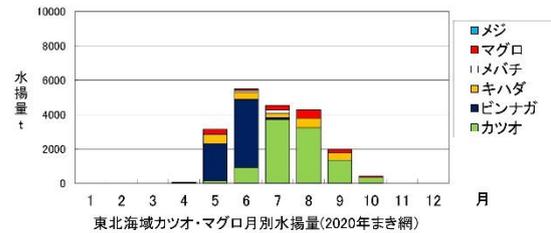
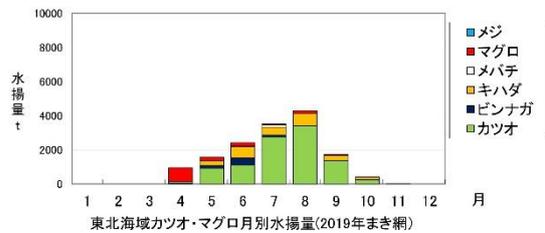
2018年：昨年（2017）を下回る（△）が、2016年をやや上回る（○）。

（漁業情報サービスセンター 本田 修）

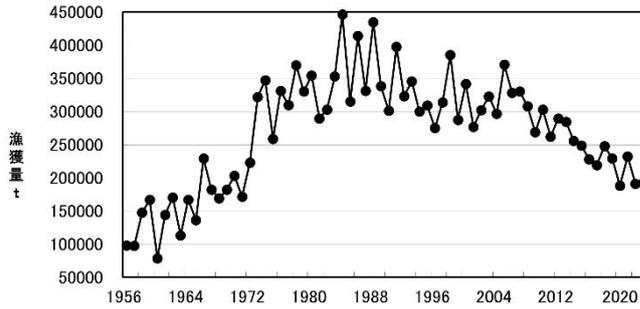
Ⅶ カツオ・マグロ類の漁獲統計



まき網による東北海域カツオ・マグロ月別魚種別水揚げ量 (2019～2024年)

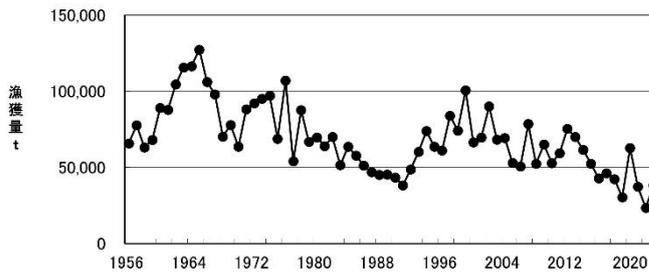


カツオ・マグロ類全国水揚量の長期変化 (1956～2023 年) と資源評価 (水産庁)



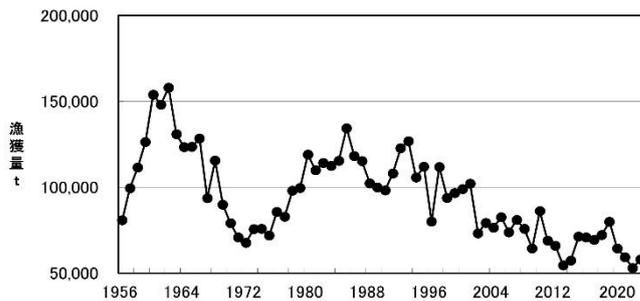
カツオ漁獲量の長期変化(水産庁:1956～2023)

2022 年カツオ (中西部太平洋) 資源の評価結果: 資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない。
※次回資源評価年: 2025 年



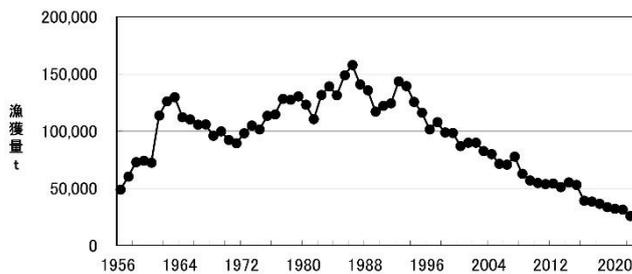
ビンナガ漁獲量の長期変化(水産庁:1956～2023)

2023 年ビンナガ (北太平洋) 資源の評価結果: 2021 年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない。
※次回資源評価年: 2026 年



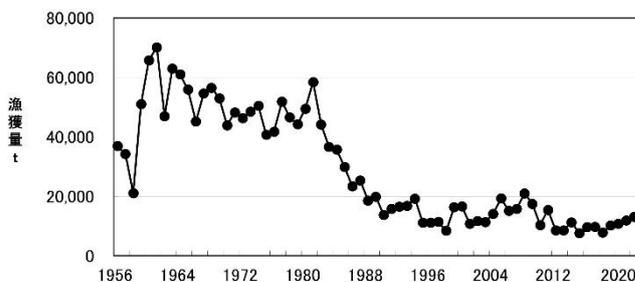
キハダ漁獲量の長期変化(水産庁:1956～2023)

2023 年キハダ (中西部太平洋) 資源の評価結果: 2021 年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない。
※次回資源評価年: 2026 年



メバチ漁獲量の長期変化(水産庁:1956～2023)

2023 年メバチ (中西部太平洋) 資源の評価結果: 2021 年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない。
※次回資源評価年: 2026 年



クロマグロ漁獲量の長期変化(水産庁:1956～2023)

2024 年クロマグロ (太平洋) 資源の評価結果: 本種資源は乱獲状態でも、過剰漁獲が進行中でもない。
※次回資源評価年: 2027 年

夏漁鰹鮪漁業の取扱いについて

1、鰹鮪1日の受入数量並びに販売について

(1) 受入(販売)数量

- ① カツオ・ビン長(マグロ・メジ)1日の受入(販売)数量は、関係各位と協議の上決定する。

(2) 販売時間

イ) 1回目の販売時間は、午前7時30分～8時頃を目安とし、販売前に予め場内放送にて告知する。

ロ) 2回目以降については、水揚状況によりその都度、販売する。

(3) 販売順位

- ① 販売順位は、受付登録船の入港順位とする。

2、受付登録

- ① 他港との二股登録は認めない。

- ② 受付登録は、1日の受入(販売)数量に達した場合、その時点で受付を締め切り、それ以降の登録受付分については、翌日まわしとする。

(但し、状況・場面に応じて、受入販売の目安数量を超過することも有り得ます。)

3、水揚船

① 水揚作業については、原則として入港順に行うものとする。

但し、数量の少ない船(4～5トン位)で自分の所で水揚作業ができて、販売は原則として入港順番に従ってもらう。(但し、先入港船の了解を求めて水揚をすること。)

4、マグロのエラ抜きと配列

① エラ抜きは、原則として丸20kg以上とする。

② 配列一山の本数・目廻りについては、

- ・ 40kg以上のものは、10kg刻み
- ・ 40kg以下のものは、5kg刻みとし、

配列は状況に応じて本数を定める。但し、大型マグロについては1本～10本以内をもって配列するものとする

5、その他

① 上記に記載あるものの他、カツオ・マグロ類の水揚販売等に関して問題が生じた場合は、その都度買受人・問屋・市場等の関係者が協議の上、取り決めるものとする。

以上

まき網・一本釣魚種選別段階(生鮮)					
[本マグロ]		[小マグロ]		[メジ]	[キメジ]
ヌキ 100 kg以上		ヌキ 35 kg以上		丸 15 kg上	丸 15 kg上
" 90 "		" 30 "		" 10 "	" 10 "
" 80 "		" 25 "		" 7 "	" 7 "
" 70 "		" 20 "		" 4 "	" 4 "
" 60 "				" 4 kg下	" 4 kg下
" 50 "					
" 40 "					
・配列 100 kg上以上は1列1本～10本山 40kg上から90kg上は、1列10本～30本 10kg上から35kg上は、1列30本～50本				注) 1) 40kg以上は10kg刻み 2) 「丸」は20kg以上を抜く	
[ビン長]		[平政]		[シイラ]	[カツオ]
10 kg上		特大－10kg上		大－7 kg上	特大－4.0 kg上
7 "		大－7 "		中－5 "	大－3.0 "
4 "		中－5 "		小－3 "	中－2.5 "
4 kg下		小－3 "		少々－3kg下	中小－1.8 "
(キズ)－4 kg上		少々－2 "			小－1.5 "
"－4 kg下		ビン－2 kg下			ピン大－1.0 "
"－大キズ					ピン小－1.0 kg下
魚種別選別段階(冷凍)					
遠洋カツオマグロ一本釣船 [ブラインB1、B同様]			海外まき網船 [ブラインPS、B同様]		
[カツオ]	[ビン長]	[カツオ]	[キハダ]	[ダルマ]	
7 kg上	10 kg上	7 kg上	10 kg上	10 kg上	
4.5 "	7 "	4.5 "	2.5 "	2.5 "	
2.5 "	4 "	2.5 "	1.5 "	1.5 "	
1.5 "	4 kg下	1.8 "	1.5 kg下	1.5 kg下	
1.5 kg下		1.8 kg下			

* 魚市場の秩序保持について

《 順守事項 》

◎ 市場利用者 各位

- 1、ゴミの持ち込み又はタバコの吸殻・空き缶・紙コップ等のゴミのポイ捨てをしてはならない。
- 2、市場構内は、徐行運転（時速10km以下）すること。
- 3、次の喫煙ルールを守ること。
 - イ、喫煙所（水揚棟内7ヶ所に設置）においてのみ、喫煙できます。
 - ロ、作業中や構内歩行中のくわえタバコは、止めて下さい。

◎ 買受人 各位

- 1、売買参加の際は、必ずプレートを制帽正面に着用して下さい。
- 2、スカイタンクの取扱いについて
 - イ) スカイタンクの回収時間は、貸出日当日の午後4時までと致します。
 - ロ) スカイタンクの破損及び回収不能については、買受人との協議の上、負担を決定します。
 - ハ) スカイタンクの返却の際は、良く洗浄し、キャップの閉め忘れのないようお願いします。
 - ニ) スカイタンクの底減り防止の為、床に接地する引きずり走行を止めて下さい。

◎ トラック運転従事者 各位

鳥類危害・異物混入及び荷こぼし・タレ流し等を防止する為、積荷後速やかにシートで荷台を覆ってから搬出して下さい。

◎ リフト運転従事者 各位

- 1、タンク・油圧ホースの点検に努め、油もれを起こさないようにして下さい。
- 2、構内作業時は、ライトの点灯を心掛けて下さい。
- 3、スカイタンク搬出・返却の際は、2段重ねまでとします。
- 4、構内での運転に際しては、必ず運転技能講習修了証を携帯して下さい。
- 5、場内外を移動する小型特殊リフトは、公道走行許可を取って下さい。

◎『金華かつお』のブランド基準

宮城県 石巻港 石巻魚市場 TEL 0225-23-8121 石巻市漁船誘致及び原魚等確保推進委員会
令和2年6月から一部改訂し、適用開始

No.	項目	基準
1	水揚地	石巻魚市場
2	漁獲海域	北部太平洋海区
3	漁法	まき網、一本釣り
4	品質	生鮮物:新物として水揚・販売されたもので、かつ買受人が 上級品と判断した物。 冷凍物:まき網ではPS製品、一本釣りではB1 製品
5	魚体重	1尾 1.8kg 以上のもの[中小 1.8~2.5 kg、中 2.5~3 kg、大3~4 kg、 特大 4~6 kg、特特大6kg以上]
6	仕向	生鮮物:丸(原魚)出荷又は刺身用の「さく」として出荷 冷凍物:スキンレスロイン、たたき等の加工品
7	期間	暦年におけるカツオの初水揚日から最終水揚日まで
8	認証シール (通しNo.付) の取扱方法	『金華かつお』の生鮮・冷凍ものの共通の認証シールとする。 原則として、金華かつおの丸出荷用発泡スチロール内に1枚を貼付、若しくは生・冷刺身の柵等のパックや袋の表面に1枚のシールを貼付する。 買受人は『金華かつお』の出荷先(量販店・小売鮮魚商・荷受・飲食関係業務筋)と認証シールの適正な取扱について相互確認の上、出荷先に認証シールを渡すものとする。
9	認証シールの配布	石巻魚市場登録買受人の要請に応じ、当分の間、無償にて配布する。
10	認証違反	『金華かつお』のブランド基準に満たないカツオを出荷し、出荷先や消費者等からのクレーム通報が当委員会に対してなされた場合、認証違反があったものと認める。 同一買受人のクレームが1漁期中2度発生した時は、当該買受人に配布したシールを没収し、以後シールの配布を行わないものとする。 尚、買受人はクレーム処理及び原因究明等一切の責任と当委員会に対する速やかな報告の義務を負うものとする。

